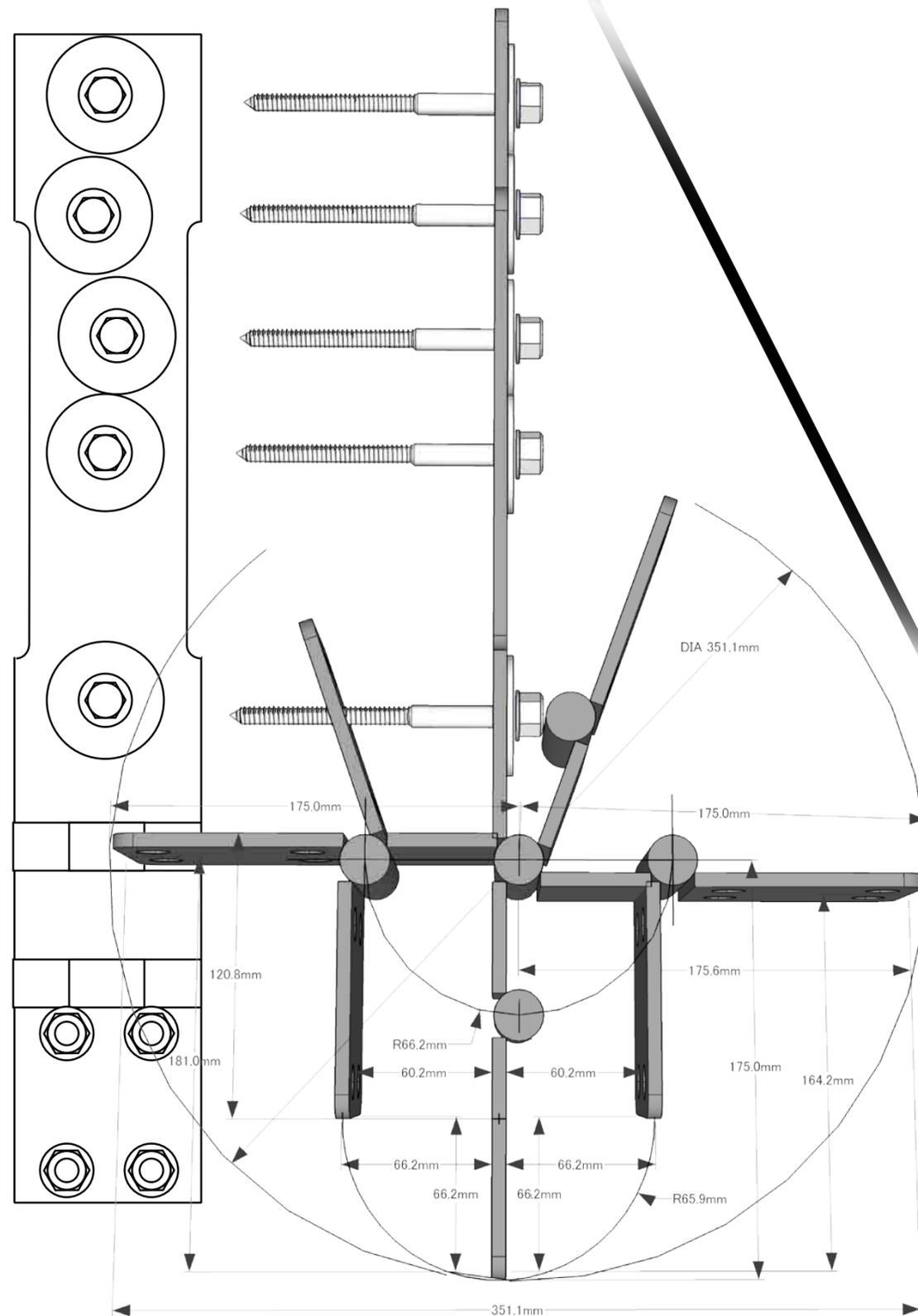
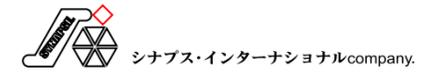


SML-LMD

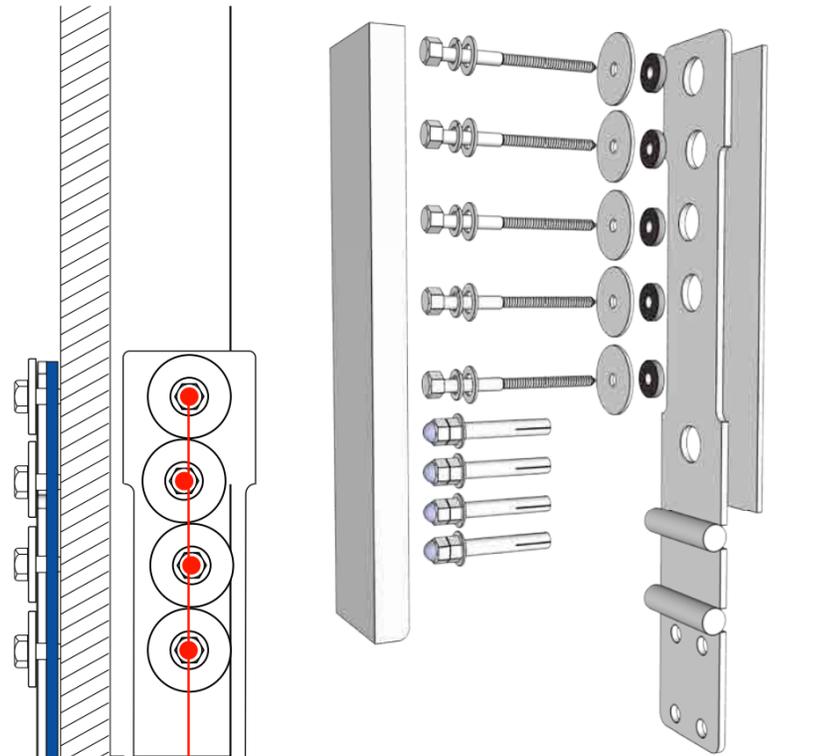


[詳細] 施工説明書 2018/01/31 訂正



SML-LMD 施工詳細説明書

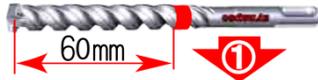
■ラムダ付属部材 / 加工工具 / 施工要領・条件



土台

基礎

●12.7Mのガイド用
8Mコンクリートドリル



●12.7Mコンクリート・ドリル



●本穴用
12.7Mコンクリートドリル



※基礎下穴は①②のドリルサイズ順で行って下さい。

■金物取付・施工条件

- 最大壁の出65mm以内。
- 取付壁面耐力1.0以上。
- サイディング壁面不可。(※壁と柱間に空洞が存在する壁「不可」)
- 「柱」直取付時の柱寸法(115mm角寸以上)
(※115mm角以内の柱取付時はコーチボルト別途購入の事。)
- 基礎高さ190mm以上。 厚み100mm以上。
- 基礎強度「210Kgf/cm²」以上。
(※条件外の基礎取付部は既存基礎耐力内となります。)
- 基礎プレート取付箇所の基礎面は平面で有ること。
- ◎金物本体の引張耐荷重力数値は、施工する箇所の状況、その他条件により補強能力が異なってきます。
- 本製品は、外部(外壁)から取付けるための取付部材仕様です。

■工具 / 補修部材

- ボックス・メガネレンチ 19M/17M
- コンクリート・ドリル 8.0M(ガイド) / 12.7M
- 木工用ドリル 5.5M/6M(ショート/ロング)

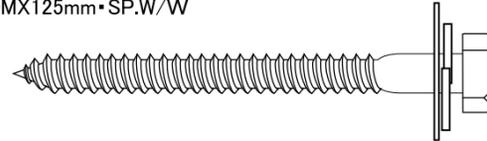
●防腐剤

●外壁用シリコン(アイボリー色/その他)



●コーチボルト

SUS10MX125mm・SP.W/W



●5.5M~6M木工ドリル

※下穴80mm・深さ目印テープ

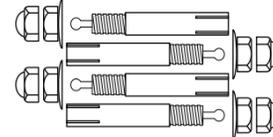


※モルタル壁面は10.5Mコンクリートドリルで柱材木部面まで取除く。

●基礎アンカー作業時の注意事項

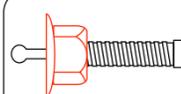
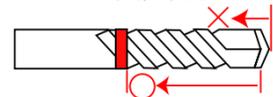
●オールアンカー

SUS12MX90mm 4set



●下穴寸法目印基準に注意!

※先端は寸法に入れない。



◎叩き込時、ボルトナットを入れ作業する。

◎アンカーボルトのナット締付は必ず手締めで。
※インパクト・電動工具等で締付けるとネジ山を壊す恐れがあります。

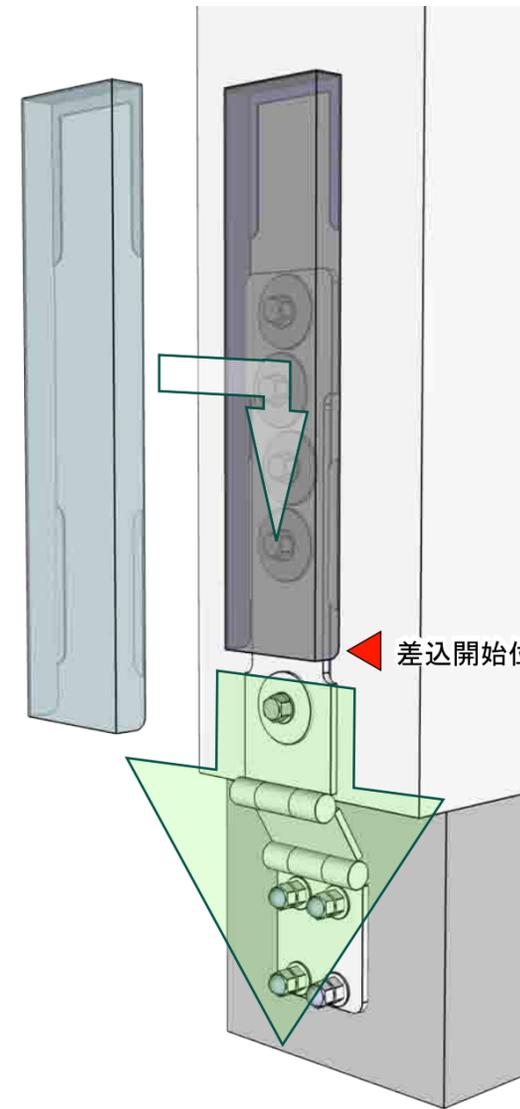
アンカーの先端ネジ溝がつぶれてナットが入らなくなった場合は、ヤスリ又はサンダー等で袋ナットが締まる程度の溝を残しネジ山を完全に削り落として下さい。
※袋ナットはケガ防止のための安全対策部材で、金物を固定する為の部材ではありません。



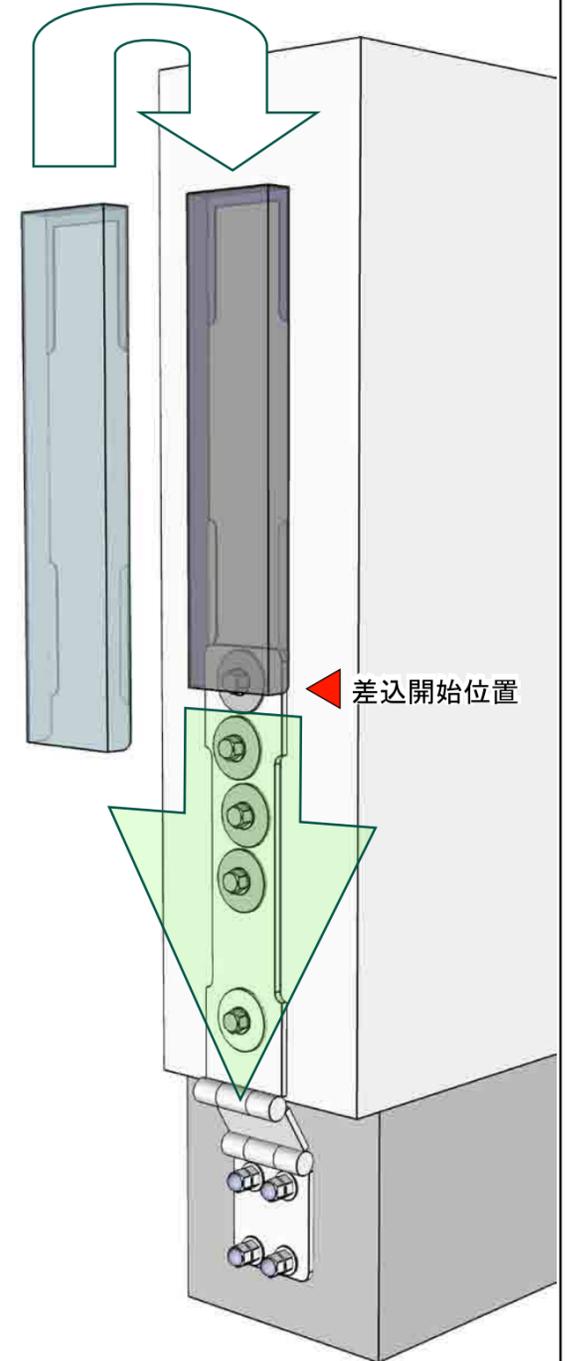
ステンレスカバー取付。

カバー「1.」と「2.」の取付方法。

1. 金物上部に障害物がある場合に有利な前面スライド取付方法です。



1. 金物上部に余裕がある場合の上からのスライド取付方法です。

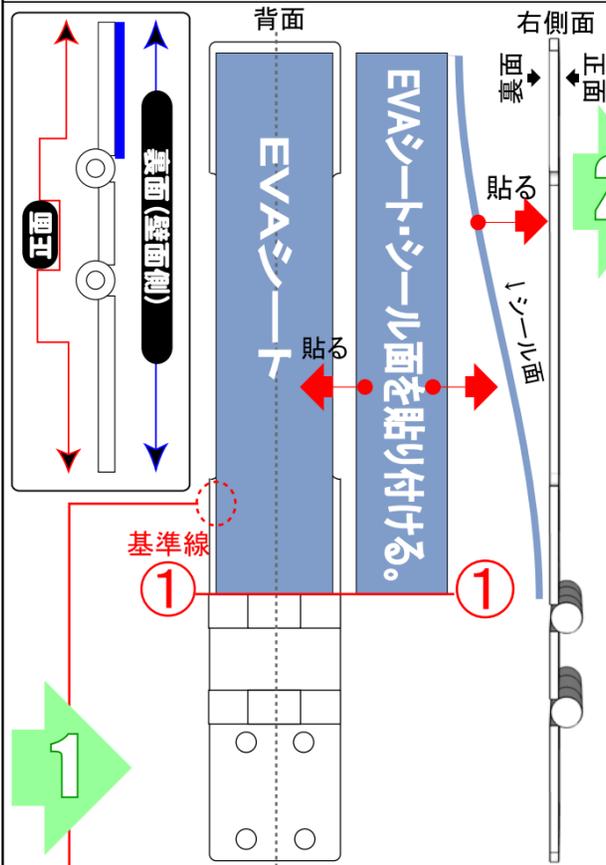


本体裏面に合わせ、スライドさせながら下へ止まるまで押し下げます。
カバー内への風雨侵入を完全に防止したい場合は、カバー周囲に外部用コーキング処理で塞ぎます。
(※建物内への風雨侵入はEVAシートが防止、保護しています。)
カバー加工面は、けがをする恐れがあります。なぞったりぶつけたりしないよう取扱いには十分ご注意ください。

1. 本体組立 (EVAシート本体裏貼付・制震構造 組立)

① EVAを基準線に合せラムダ裏面センターに貼る。

●使用部材 「本体」「EVAシート」

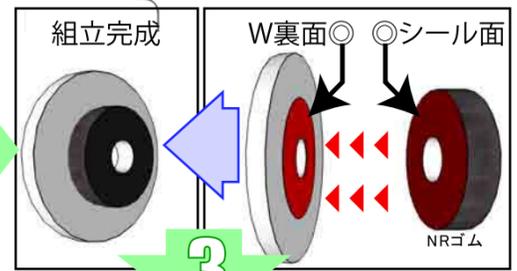


※注意:周囲の空気が均等になるように貼付ける事。

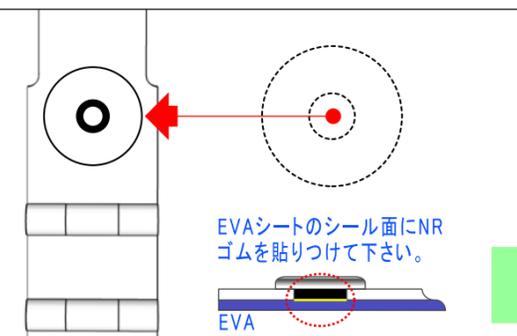
② 制震サイクル構造の組立

●使用部材 「W」「制震ゴム」「本体」

※ゴムとWの「○」中心に合わせ貼りつけて下さい。



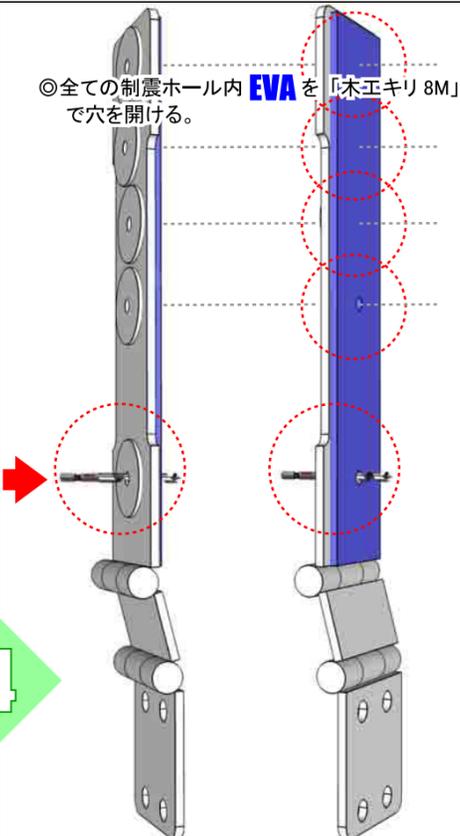
③ 本体制震ホール内にNRゴムハマ込み。



※注:W角のテーパでケガをしないようご注意ください。

④ 背面EVAシートの8M穴開け

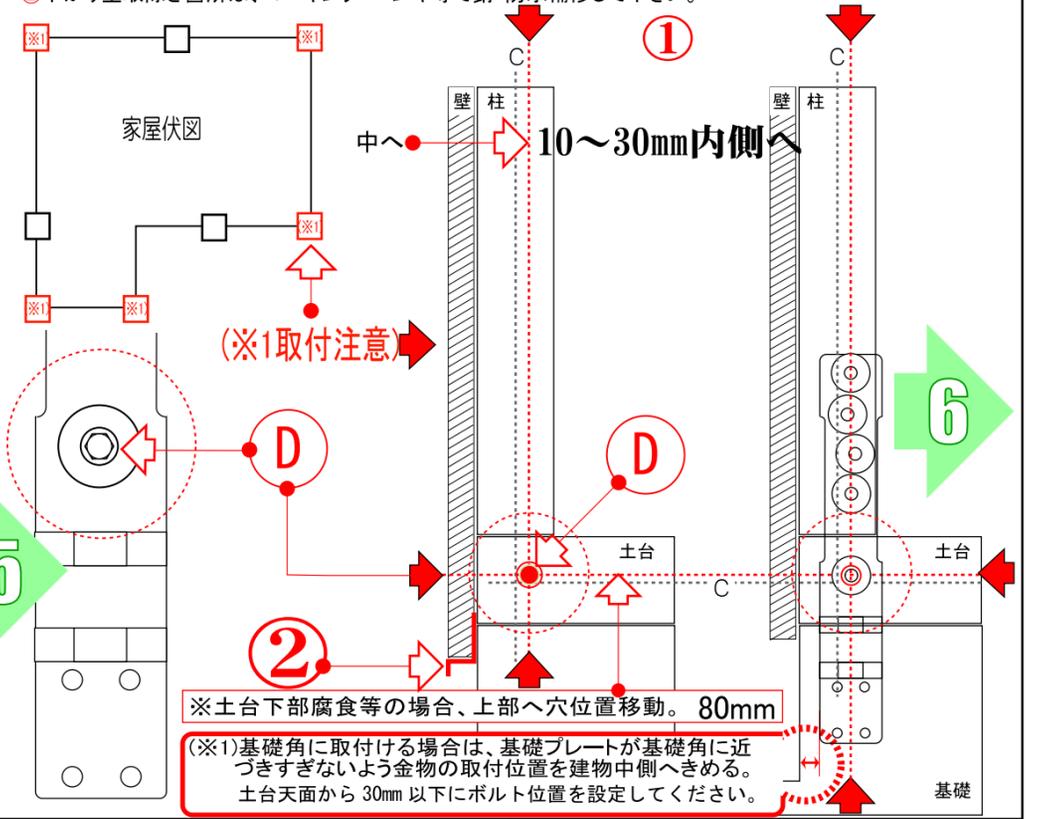
●使用部材 「木工キリ8M」



※注:8M以上は使用しないでください。ボルト軸の防水効果が失われます。

2. 土台穴位置出し (本体全箇所位置決め用 ※土台寸110mmの場合。)

- ① 本体土台止め穴(D)と土台(D)を合わせ、同時に金物基礎プレートを基礎面に当て、適切に取付可能かを確認する。
- 土台穴位置を、柱材寸法の中央上部、基礎天面から上方向30mm~80mm以内に決める。
- 建物角柱に取付ける場合(※1)。(家屋中間柱は材センター)
- ① 柱中央から建物内10mm~30mmの位置に金物のセンターを決める。
- 壁下がりや障害になる場合は取付に必要な範囲の壁・水切りを取除く。
- ② 下がり壁取除き箇所は、コーキング・ペンキ等で錆・防水補修して下さい。

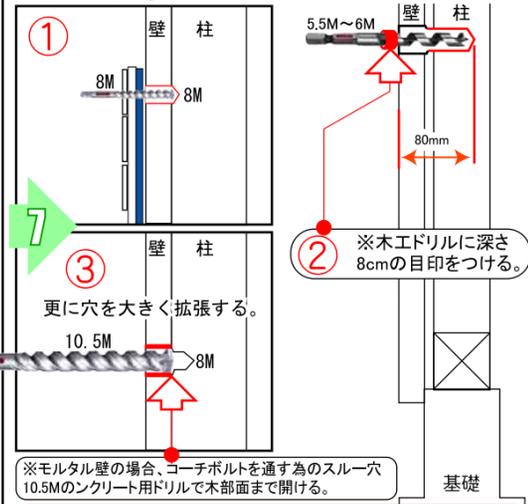


※取付壁のご注意。壁と柱材の間に空洞の有る構造壁(サイディング壁・材集合施工壁・その他柱と壁全体が密着していない構造壁) 著しく面耐力を損なっている外壁への取付は行わないで下さい。取付壁面がモルタル・一体構造壁等で、金物取付で壁が変形したり潰れたりしない壁面を対象に取付けてください。

3. 柱部穴開け

●使用部材 「コンクリート・ドリル8M/10.5M」「木工ドリル5.5M~6M」

- ① 本体を取付位置に合わせ、金物最上部ボルト穴にコンクリートドリル8Mで壁厚分下穴を開ける。
- ② 本体外し木工ドリル5.5M~6Mで深さ80mmの下穴を開ける。
- ③ 10.5Mコンクリートドリルで拡張する。

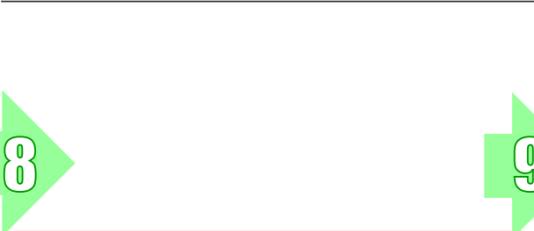


※注:土台材に固定力が不足している場合は、下穴深さを浅めに開け、また木工ドリルは5M~5.5M以内を使用し、固定耐力を確保して下さい。

4. 柱の下穴加工

●使用部材 「本体」「コンクリート・ドリル8M/10.5M」「木工ドリル5.5M~6M」「コーチボルト10M×125mm(1本)」

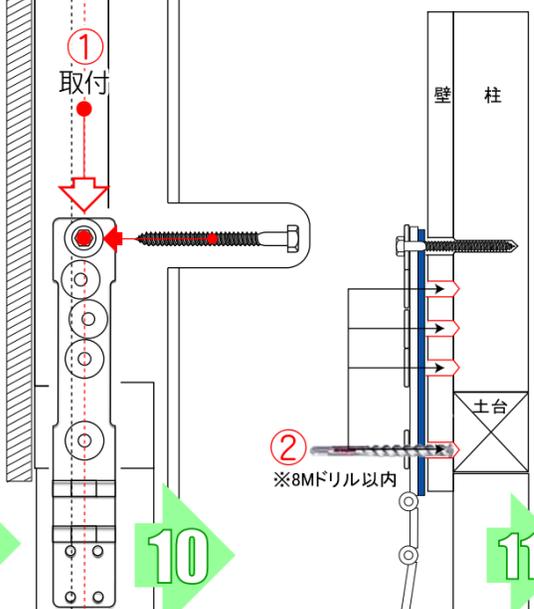
- ① 本体が真直ぐになるよう柱に取付る。 ※柱取付穴加工のため、金物を固定する。
- ② 残り4箇所を壁面から柱面まで8M以内のコ・ドリルで開ける。 ※モルタル部分を取除きます。
- ③ 「柱」下穴、木工キリ「5.5M~6.0M」で深さ80mm開ける。
- ④ 金物一旦取外す。
- ⑤ 「壁」8M下穴をコンクリート・ドリル「10.5M」で柱面まで開ける。



◎ボルト下穴加工には、施工書指定のドリル径と指定の深さを必ず厳守してください。

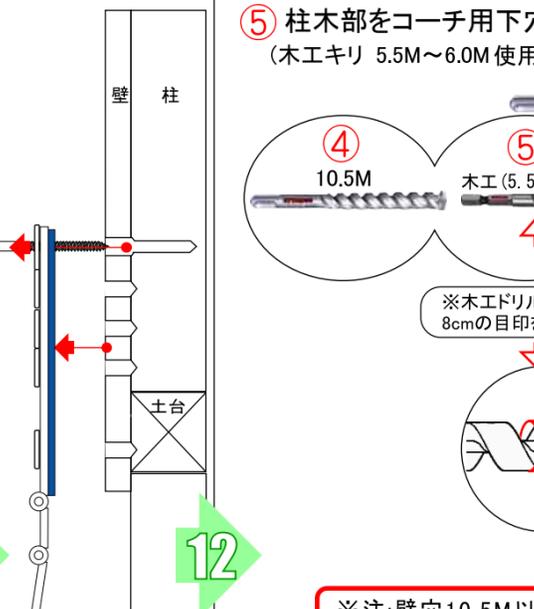
① 金物「柱」取付 (※仮止めになります。)

壁柱



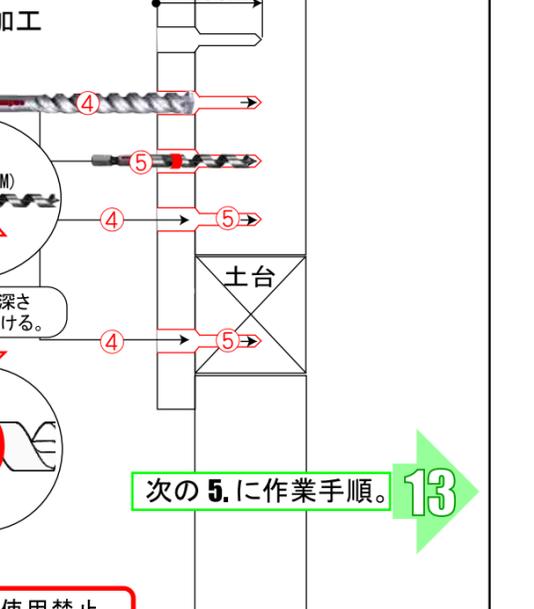
② 壁部穴開け(モルタル除去)

コンクリート・ドリル8M以内で柱面まで開ける。



③ 仮止め取外し。

壁柱



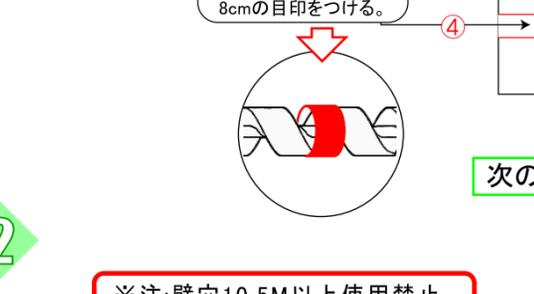
※注:壁穴10.5M以上使用禁止。制震性能が損なわれます。

④ 10.5M で壁部のみ開ける (コンクリート・ドリル「10.5M」使用。)

(コンクリート・ドリル「10.5M」)

⑤ 柱木部をコーチ用下穴加工 (木工キリ 5.5M~6.0M使用。)

(木工キリ 5.5M~6.0M使用。)



次の5.に作業手順。13

5. 柱取付用下穴加工 ※モルタル壁の場合

●使用部材 「5.5M~6M」「10.5」

①「10.5M」
※コンクリート用ドリル

②「5.5M/6M」
※木エドリル

※下穴内の切粉除去。

※斜穴開けに注意

※締付時にボルトが斜めにならない様下穴を開ける。

6. 下穴の防腐・保護処理

●使用部材 「シリコンコーキング剤」「防腐剤」

※木部穴5箇所

防腐剤

※下穴周囲はEVAで密閉され風雨を遮断しますが、より完璧を期す為に適量コーキング処理します。

7. 本体柱部ボルト取付

●使用部材 「本体」「17Mソケット」「コーチボルト10M×125mm(5本)」

※EVAが均一になるよう締付けて下さい。
※最後の締付けは手締めで確認して下さい。

※壁面凹凸が大きくEVAの密着性が悪い場合は、金物周囲をコーキング処理し防水効果をつけて下さい。

8. 基礎プレート取付用下穴加工

●使用部材 「コンクリート・ドリル8.0M(ガイド穴用)/12.7M(アンカー下穴指定穴用)」「清掃ブラシ」「ブロアー・エア」「テープ」

①基礎プレートを基礎面にあて、アンカー穴位置をマジックで印。
②8Mで指定穴用(12.7M)のガイド穴を深さ60mm開ける。

③基礎プレートを上に回転させ、テープで一時的に固定する。(下穴加工作業の為。)
④本穴をガイド穴に沿って開ける。
⑤⑥ブラシ・エア・ブロアー等を使用して下穴内の切粉を完全に除去する。

④「12.7M」
本下穴

⑤ブラシ

⑥下穴清掃

※下穴清掃は強いエアーを使用し、小石等が残らないよう確実に除去して下さい。

9. 基礎プレート・アンカー取付 「大ハンマー」

●使用部材 「アンカー12M×90mm(4本)」「袋ナット(4個)」「19Mソケット」

①基礎プレートを押しあてる。

②ネジ溝を保護する為にナットを逆さに差込んで置く。

③アンカー1本を下穴奥まで確実に差込む。

④アンカー芯棒を叩き込む。芯棒がアンカー頭部に接するまでハンマーを用いて確実に打込む。

⑤打込んだアンカー1本のナットを締付、基礎プレートを仮固定。

⑥残り3本アンカーも同様に打込み、取付状態を確認後全てのナットを確実に締付化粧の袋ナットも締付。(※締めすぎに注意して下さい。引出します。)

※基礎プレートを基礎面に押付、アンカーを下穴奥まで確実に押込み打込んで下さい。
※アンカーボルトナット最終締付は必ず手締確認しながら行って下さい。
※剪断方向の使用です。適度の締付で固定効果が得られます。

10. 施工完了・最終仕上げ処理

●使用部材 「ウエス」「CRC」「その他*1.洗浄剤」 (*1.金属・塗装面に影響のない洗浄剤)

①施工時の金物本体の汚れを、ウエス、CRC等で拭取る。取付状態、施工箇所状況を再度確認します。

②コーチボルト締付ソケット**摩耗鉄粉を確実に取り除いて下さい。**※放置すると後に「錆び」となります。本体はSUS304で錆びに強い材質ですが付着を放置した場合、取除く事が出来なくなる場合があります。

◆完了後、回転軸スキマ4個所にシリコンをすり込み、金物に付着したコーキングは拭取って下さい。

※ボルト締付け時のソケット摩耗鉄粉等の本体付着は必ず清掃取除いて下さい。本体面に錆を招く原因になります。
※施工一週間後に本体点検をお勧めします。

■施工上の注意事項 その他

L字形使用の場合

※L字使用の場合、オールアンカーへの引抜け力が垂直方向になります。アンカー打ち込み箇所のコンクリート強度が十分であることを確認後、施工手順に従って施工してください。

◎下手基礎厚150mm以上
基礎強度「210kgf/cm²」以上に使用。無配筋基礎部の使用禁止。

■アンカーに加わる破壊力について。
①引抜防止使用⇒剪断力(ボルト軸に直角)
②L字使用の場合⇒引抜力(ボルト引抜垂直力)

■施工工具類・その他部材 (※施工当日前に、現場・施工書等確認の上、必要な物をご用意下さい。)

- インパクトレンチ/電動ドライバー/ハンマードリル/電気ドリル
- エアーステム(エアガン/コンプレッサー/ブロアー)
- シンナー(鋼材・他カッター各種) ●電源延長ケーブル三口5m以上
- 作業灯 ●メガネレンチ17Mと19M又はボックス・レンチ
- +/-ドライバー ●ハンマー大(アンカー叩き込み用)小
- パール(基礎下堀・その他用)/スコップ
- 木工用ドリル5.5M~7M ※ロングとショート ●鉄鋼ドリル12M/6M
- コンクリート・ドリル12.7M(12Mアンカー下穴用)
- モンキー・250mm スパナ類・プライヤー ●カッター
- 手鏡(通風口からの土台その他状況確認用)
- 外壁用コーキング(塗装可能品) ●木工ボンド ●マスカラ
- 防腐剤/防錆剤 ●他 ●補修セメント(アンカー穴・ハツリ・その他)
- 電工ビニールテープ赤(ドリル深さマーク用)
- 間柱センサー
- CRC防錆材(ネジかじり対策・ゆるめ・他)
- シンナー(ラムダ本体清掃・コーキング処理)
- ウエス・布
- マジック黒/赤 (中)(太)
- 養生シート(姿勢足場用)ダンボール
- 垂木(各種サイズ)
- スケール・垂直スケール・さげふり
- カメラ(施工前/後の記録・提出用等)
- 防塵マスク ●安全ゴーグル・ヘルメット
- 細作業用手袋/車手/皮手袋
- ほうき・ちりとり・ごみ袋

※家屋状況・現場によりましては、記載項目以外の工具、部材その他が 必要となる場合が有りますので、事前の調査を行い準備して下さい。

※本製品は、家屋補強用を目的とした柱及び柱結束/引抜け防止用金物です。その他の用途には絶対に使用しないで下さい。
※重い金物です、手や足その他に落とさないよう持ち運び取扱等には十分に御注意下さい。
※本製品の加工部と形状、駆動箇所等ケガなどしないよう取扱いは十分に御注意下さい。
(※壁の内部、柱に直接取付ける場合、付属のコーチボルトは長さ125mmと長い柱材を抜く可能性がありますので、別途にSUS304コーチボルトの長さを90mmの物をご使用ください。)
※補強家屋、取付箇所の状況により、施工書に沿った取付が出来ない場合があります。その場合は、取付箇所の現状に最適な取付方法で施工を行って下さい。
※加工穴の清掃は、固定力低下防止の為、確実に行って下さい。
◎製品及び部材仕様は性能向上の為に予告なく変更する場合があります。

確実な補強効果が得られるよう、施工指示書に従って取付工事を行ってください。

◆予想し得ない状況下にさらされた場合も想定した設計と造る技術が駆使されています。補強効果を最大限に活かすことが出来る取付にご配慮ください。

2018/01/31

■アンカー施工時の注意事項。

- アンカー使用条件に基づくコンクリート強度への使用。
- 施工時には必ず安全メガネ、ヘルメット等保護具を着用する。
- 指定孔深さ寸法より浅すぎると芯棒の折れ曲がりの原因となります。また、深すぎると金物の固定ができなくなり、剪断耐力性能も減退します。
- ブロアーは十分に行う。切粉が残っていると十分にアンカー先端が開かず、固定強度不足になり、最悪の場合微少な衝撃に抜ける場合があります。
- ハンマーはアンカーに応じた適切なものをご用意ください。小さなハンマーは、跳ね返り大変危険です。

■異常に対する処理。

金物本体及び部材・アンカー等の本体形状不良による取付不可、及び挿入不可。アンカー芯棒の欠け、曲がり、芯棒が最後まで打込めないアンカー本体の損傷、又、金物本体、部品不良等の異常が発生した場合は、使用を中止し購入先、または弊社までご連絡ください。

■安全に関する注意事項

金属片、コンクリート片が飛散し失明などの危険がありますので、ヘルメット、安全眼鏡等の保護具は必ず着用の上作業して下さい。

■警告

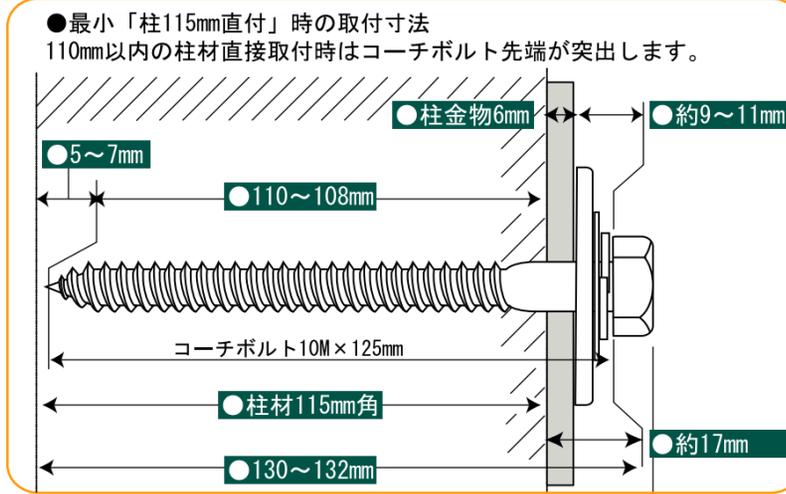
施工説明書で指示されている以外の施工方法及び条件で施工されますと人身に対する危険、及びコーチボルト、アンカー性能低下による重大事故につながる恐れがありますので、安全に関する注意事項及び施工方法を全て厳守して下さい。
※ご注意：外壁に使用する場合、耐力の無い壁(壁耐力1.0以下)への取付は絶対に行わないで下さい。

■品質管理には万全を期しておりますが、万一不良品欠品等がございましたら、製造元又は、ご購入先にご連絡ください。

synapse.international.,Company. **NO.12**

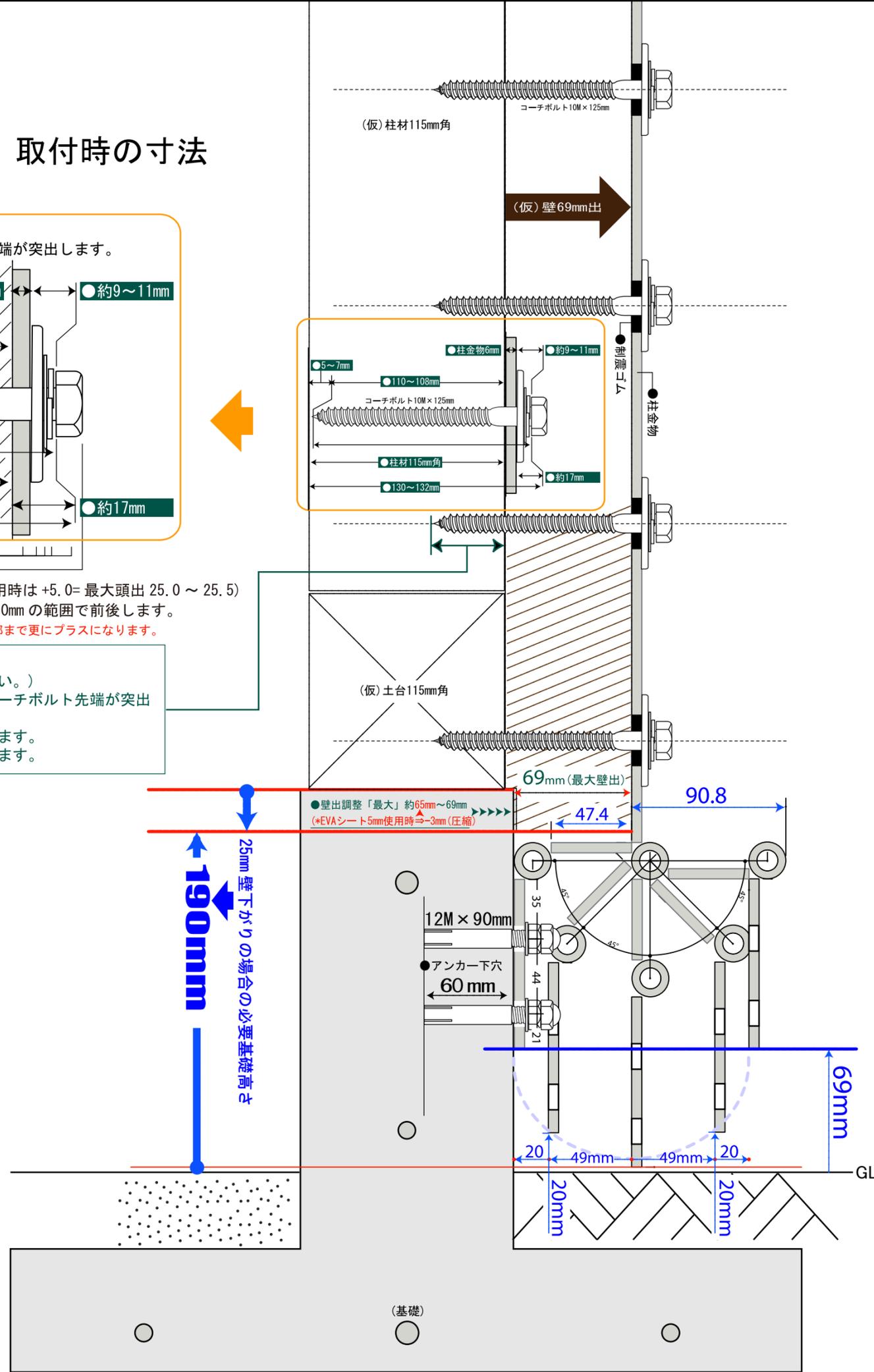
■前後回転時の寸法

■最大有効壁出「69mm」取付時の寸法



●各部材厚み
6.0/4.0/1.5/2.7/6.3=20.5 (EVAウレタン使用時は+5.0=最大頭出 25.0~25.5)
※部材採用時期により頭出合計 /mm が約 0.5 ~ 1.0mm の範囲で前後します。
※基礎出がある場合、柱面に当材が入り、柱面からボルト頭部まで更にプラスになります。

●柱材へのコーチボルトねじ込み深さ。
(※取付材105mm以上。壁出50mm以内でご利用下さい。)
(※柱110mm角以内の柱に直接取付ける場合は、コーチボルト先端が突出しますのでご注意下さい。)
「壁厚30mmの場合」80mm~77mm ボルト軸が入ります。
「壁厚50mmの場合」60mm~57mm ボルト軸が入ります。



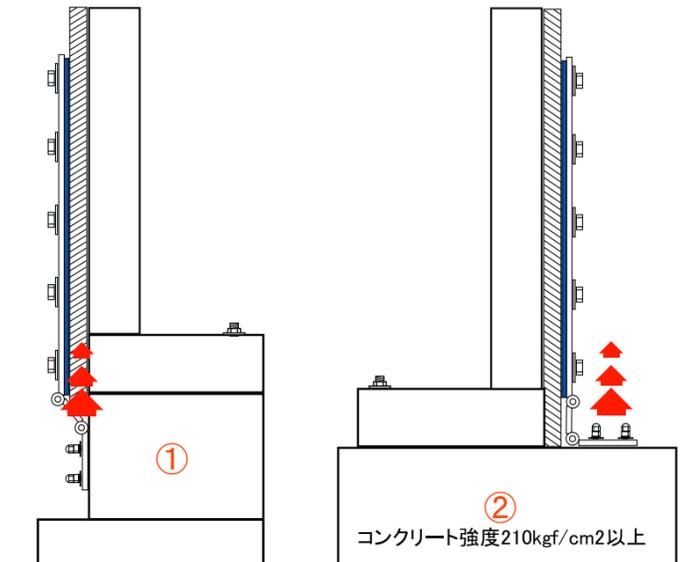
■後付柱金物 下手基礎柱金物立上げ補強時の条件とご注意。

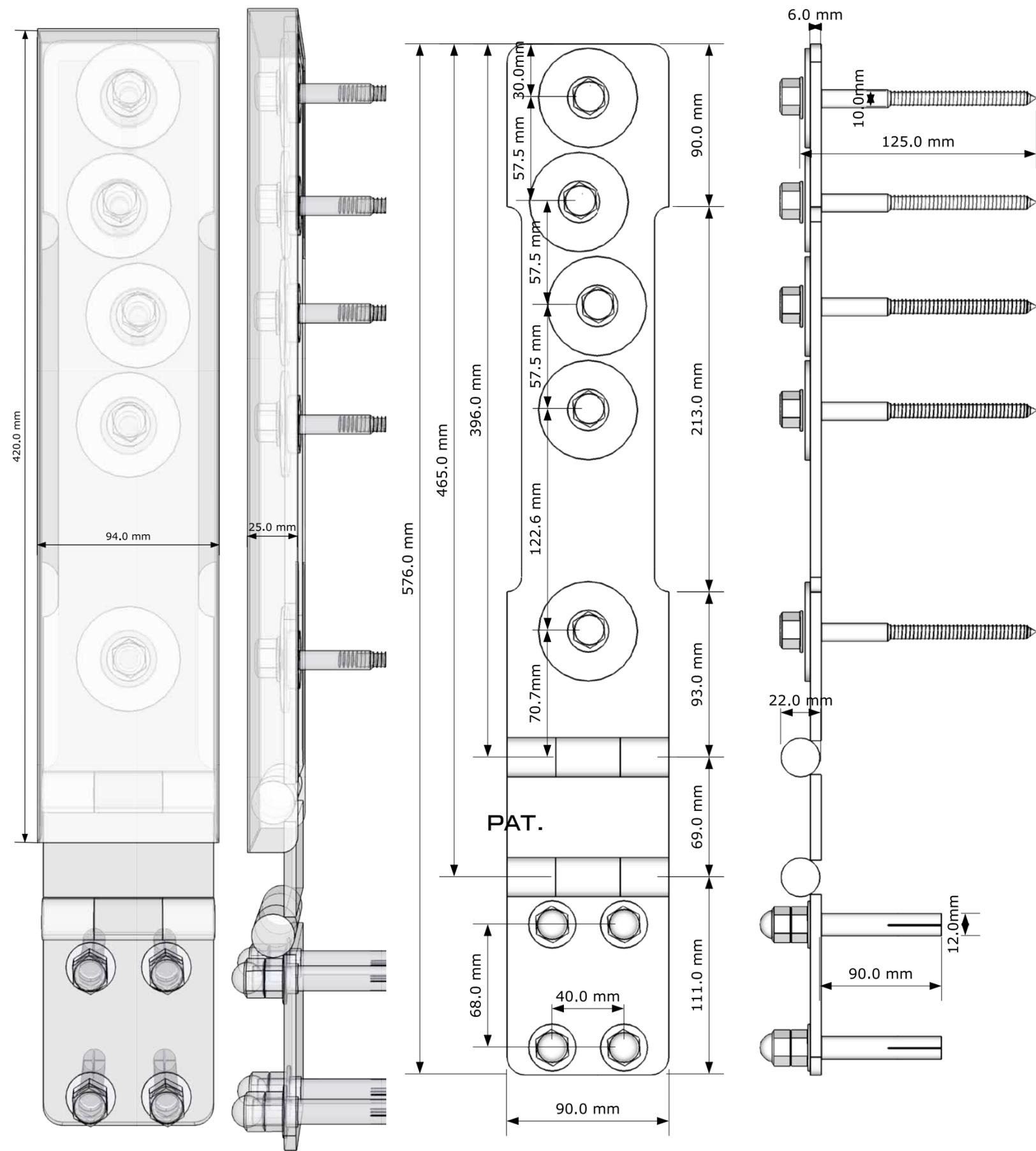
◆(後付柱金物)下手基礎使用
柱金物補強の基礎取付条件が下手基礎の場合に限り、下記注意事項と取付条件をご確認下さい。また、ご了解の上、下手基礎仕様をご利用下さい。

◆柱金物<固定ボルト耐力>L字使用時の変更
柱金物の固定ボルト使用方法により加わる破壊力が、直角(アンカーボルト軸に加わる「剪断力」)から、垂直方向(アンカーボルトの「引抜き力」)に変わります。

◆使用条件
<基礎固定用アンカーボルト(12MX90mm/SUS304)仕様>
①通常使用⇒剪断力(直角力) 71.5KNから
②L字使用の場合⇒引抜き力(垂直力)17.1KN×4本=68.4KNに変更。
※下手配筋構造基礎コンクリート強度210kgf/cm²以上にご利用下さい。
コンクリート強度が不足している場合は、指定強度確保のための補修工事を行った後に耐震金物を取付けてください。

◎「無配筋基礎」及び「低耐力構造基礎部」の使用禁止。
※単にコンクリート造の構造基礎箇所には絶対に使用しないで下さい。
柱補強部に期待される引抜け防止効果が十分に得られません。





製品仕様・付属部材・寸法

■Type.

- 1.)(Patent.制震構造金物)
Seismic control structure hardware
- 2.)(耐震構造金物)
Earthquake-proof structure hardware
- 3.)(Patent.自由回転変形構造金物)
Free rotation transformational structure hardware

■部材一式仕様

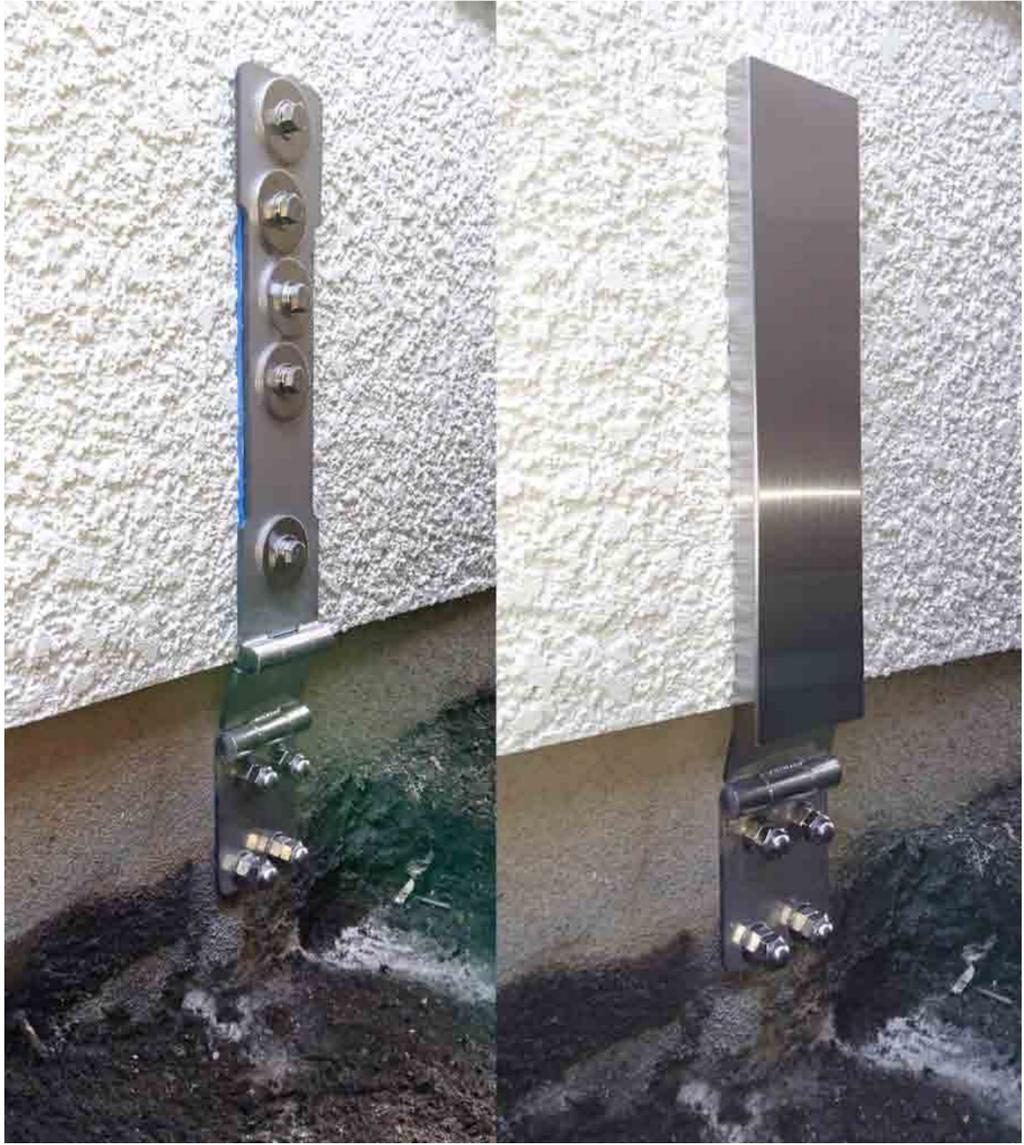
- 1.本体(SUS304 Stainless steel 2B / 約2.3kg)
最大引張耐荷重力数値71.5KN(回転構造部)
(基礎部 可変調整プレート式「PAT.」)
※瞬間最大加力時Support→制震SYSTEM保護効果有
- 2.STAINLESS.COVER(SUS304 Stainless steel hair line / 約0.5kg)
Slide desorption type (スライド脱着式 110mm上下移動)
- 3.EVA5倍発泡 Urethane sheet
金物本体背面接着仕様
EVA.Support項目(取付穴完全防水・完全密閉仕様)
(防水効果部→・木部ボルト軸周囲・取付壁下穴加工部周囲)
※取付面凹凸2mm以内、及び穴の無い平面が条件。
- 4.オールアンカー(SUS304 Stainless steel)
M12×90mm/4本(化粧袋ナット付属)
(剪断最大荷重24.4KN×4本合計97.6KN)
※(*1.)コンクリート強度21N/mm²(210Kgf/cm)以上
- 5.コーチボルト(SUS304 Stainless steel)
(SUS304 M10×125mm=5本)
- 6.衝撃力吸収緩和 制震システムパーツ「PAT.」
制震構造密閉格納ワッシャー(SUS304 Stainless steel/W)
(径55mm×t4/5枚)
制震ゴム(NR硬質天然ゴム / 径30mm×t6 / 5個)
劣化防止(構造内密閉仕様)※内径 ボルト軸密着径(非公開)
※「特許」部にSS/鉄(特殊加工・表面防錆処理・超硬質加工鋼材軸)使用。
(※詳細非公開) ※性能向上の為、仕様変更を行う場合があります。

■取付必要寸法 (※1.0以上の取付面耐力)

最大取付必要寸法 (※カバー着時を含) (※柱角寸105以上~) (※直柱取付寸110~)	高さ	壁	495mm
		基礎	170mm
(単位:mm)	幅	壁	95mm
		頭出	最少 約25mm 最大 約50mm
最少取付寸法 (※本体のみの取付)	高さ	壁	385mm
	幅	壁	90mm
必要基礎厚 (※有筋基礎 (*1.)) (※無筋基礎厚120mm以上、施工適正確認要す)	厚	最少	100mm (※表面仕上塗厚除く)



NO.14



MEMO



シナプス・インターナショナル COMPANY.

検索 シナプス耐震

<http://www.synapsejp.com>



synapse.international@synapsejp.com



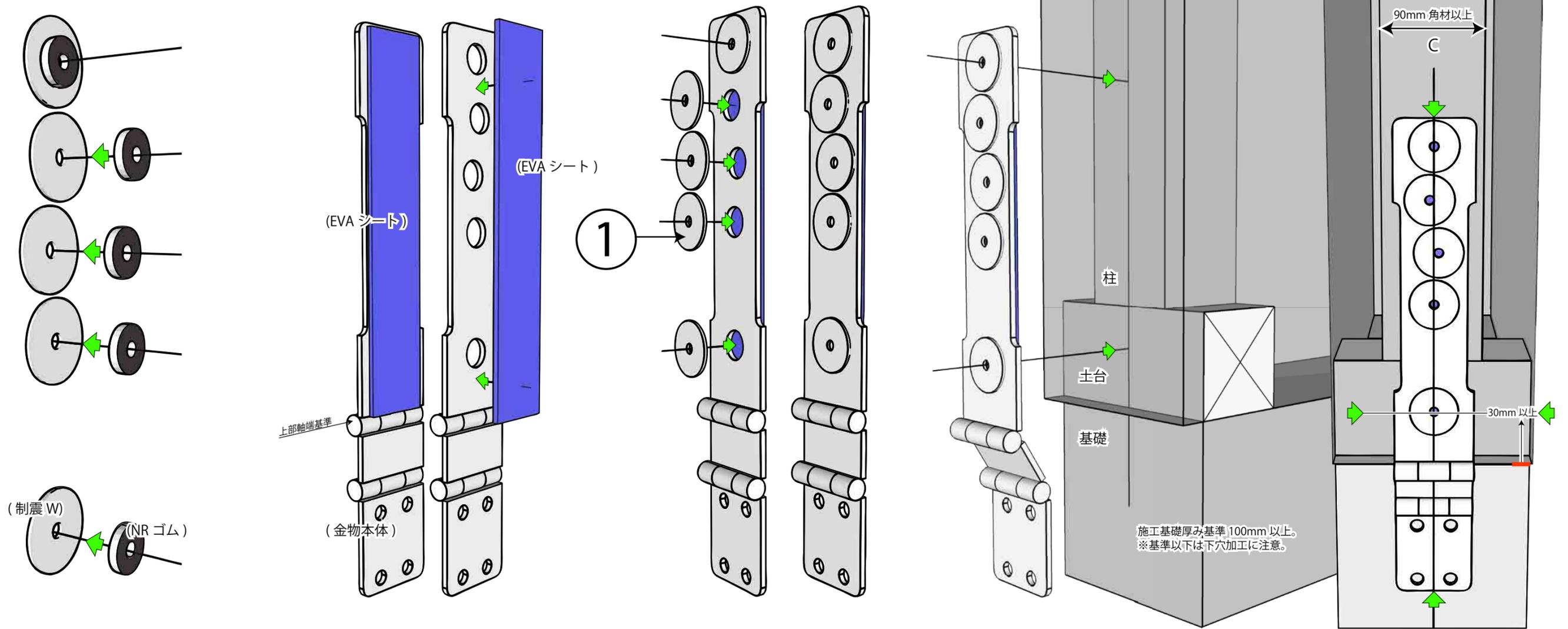
① サイクルパーツ組立。

② EVA シート本体貼付。

③ 本体に①を組込

④ 取付位置の確認。

⑤ 取付位置決定。



- ① 制震 W 中心に NR ゴムのシール面を貼りつける。
 - ② EVA シートを金物本体背面に上部軸端を基準とし、左右の空が均等になるように貼りつける。
 - ③ 金物本体正面から①パーツ NR ゴムを制震ホール内に組込む。
 - ④ 補強対象柱の位置と金物取付上下左右位置を確認する。
- ※建物「角柱」取付は別紙詳細施工書の**(2. 土台穴位置出し)**を参考に位置を決定して下さい。)
- ⑤ 最終金物取付位置を決定する。



NO.2

⑥8.0M コンクリート
ドリルで壁面のみ穴
1箇所開ける

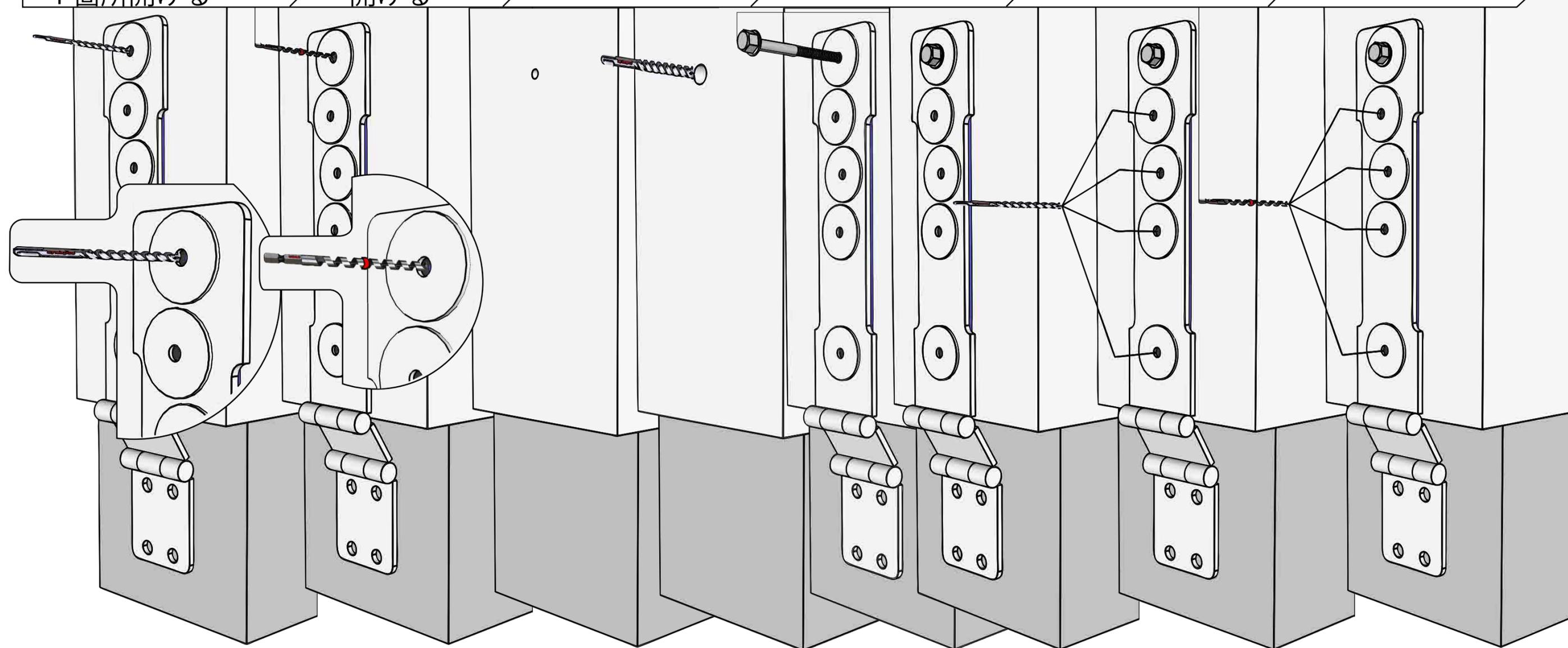
⑦6M 木工ドリ
ル深さ 80 mm
開ける

⑧壁部のみ
穴 10.5M に拡張

⑨金物 1 箇所のみ
取付

⑩壁部のみ 4 箇所
8.0M 穴開ける

⑪木部下穴 6M
深さ 80 mm開ける



⑥モルタル壁面の場合、金物を取付位置に当てがい、最上部取付穴位置にコンクリート・ドリル 8M 以内を使用し壁面のみ穴を開ける。

⑦同穴位置に木工ドリル 5.5M ~ 6.0M を使用し、深さ 80mm の下穴を開ける。

⑧金物を外し、同穴位置にコンクリートドリル 10.5M で、コーチボルト 10M 軸が通るスルー穴を壁部のみ拡張する。(※指定以上のドリル径は使用しないでください。制震効果が減退します。)

⑨コーチボルト 10M/125mm(ソケット 17M)1 本のみで、金物が真直ぐになるよう水平機などを要いて固定する。

⑩金物が左右に振れないよう押さえながら、残りの木部下穴 4 箇所をコンクリートドリル 8M 以内を使用し壁部のみ穴を開ける。

⑪同穴位置 4 箇所を木工ドリル 5.5M ~ 6.0M を使用し、深さ 80mm の下穴を開ける。(※カラー色ビニールテープを使い、ドリルに下穴の深さ限度の目印をする。)



NO.3

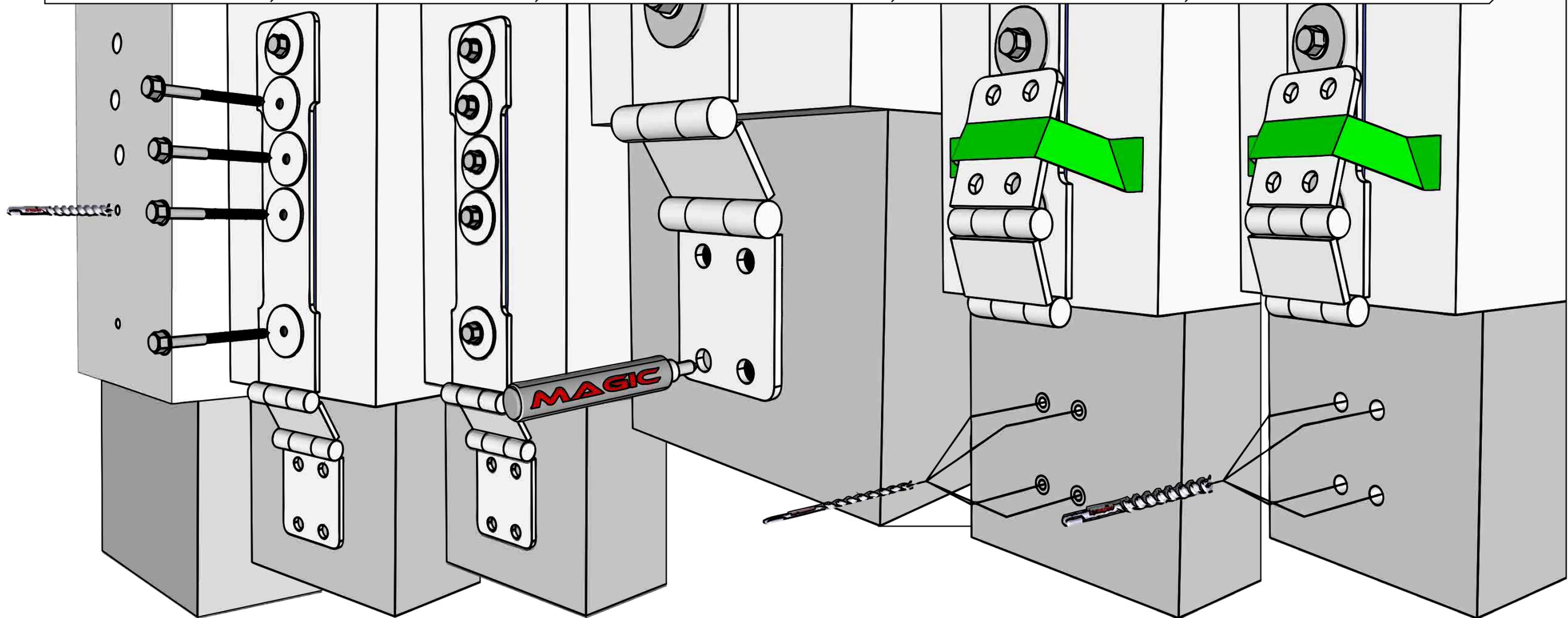
⑫壁部のみ 4箇所
穴 10.5M に拡張

⑬全ての木部を固定

⑭基礎アンカー位置
マジック印

⑮8M コンクリート
ドリルで下穴深さ
60mm開ける

⑯12.7M コンクリート
ドリルで本下穴深さ
60mm開ける



⑫金物を取外し、10.5M コンクリートドリルで壁部のみ穴を拡張する。

⑬木部「柱」全てのコーチボルト 10M×125mm で金物を取付ける。

⑭基礎プレートを基礎面に押し当て、マジックでアンカー位置を正確に印する。

⑮基礎プレートを上部に回転させテープで固定し、12.7M 用ガイド穴を 8M コンクリートドリルで深さ 60mm 開ける。

(※穴位置ずれ、基礎破壊等のリスクが考えられる為、アンカー下穴指定ドリル 12.7M で初めから開けないで下さい。必ず、細いドリルでガイド用穴を開けてから 12.7M を使用して下さい。)

⑯12.7M コンクリートドリルを使い 8M ガイド穴に沿って深さ 60mm の下穴を開ける。



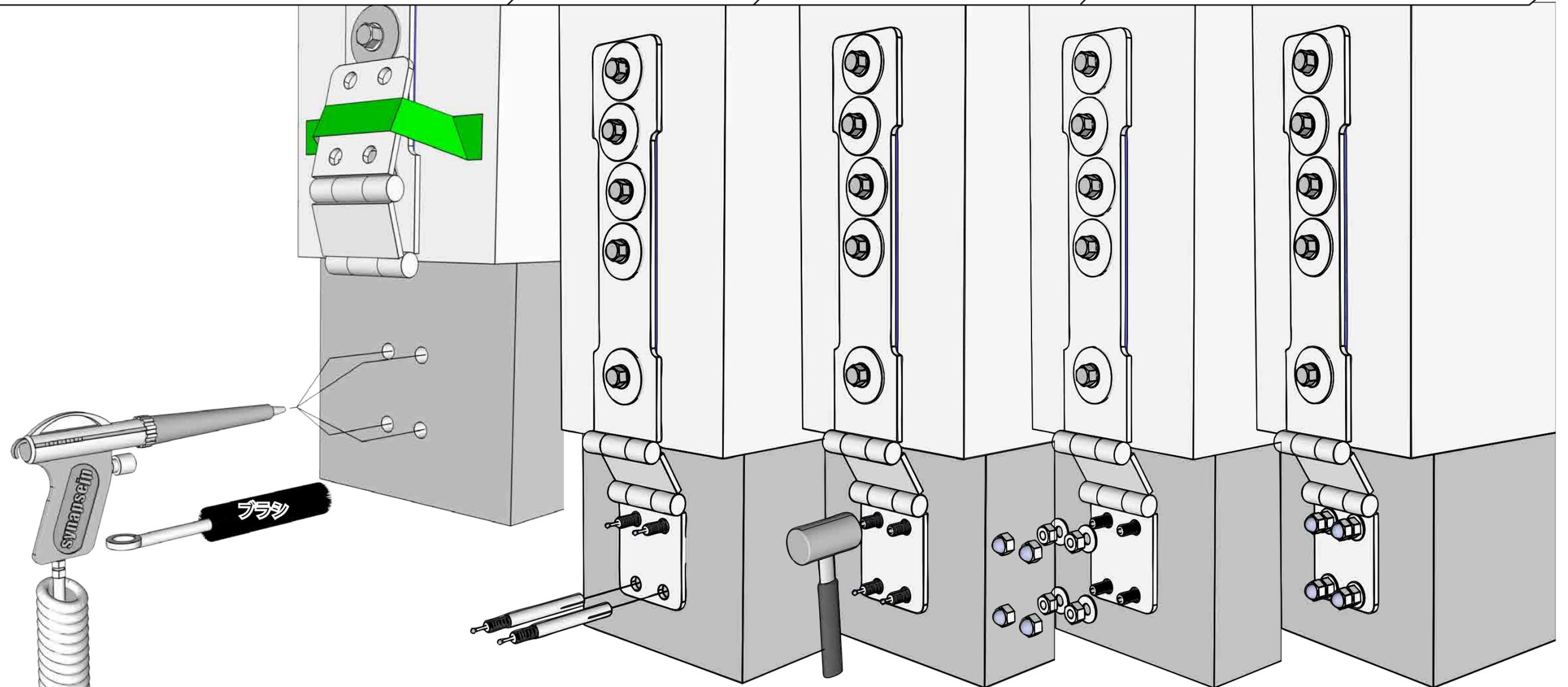
NO.4

⑰アンカー下穴内の清掃。

⑱アンカー施工。

⑲アンカー芯棒打込み。

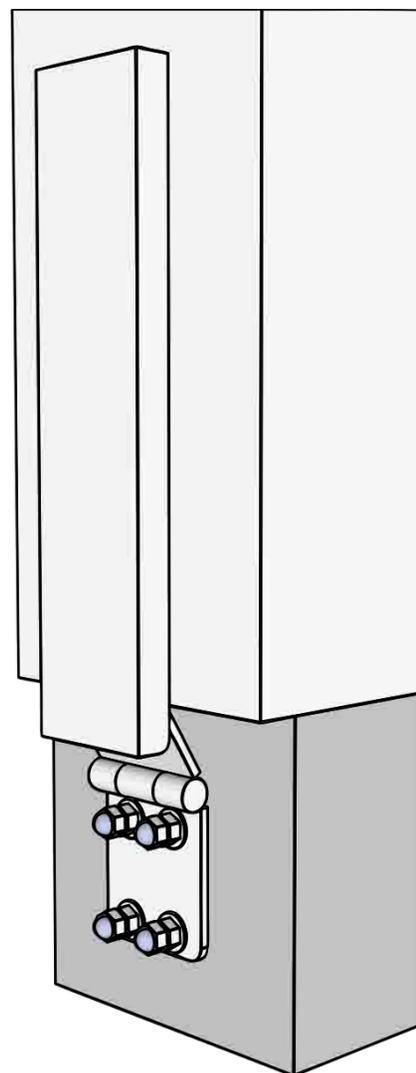
⑳基礎プレート固定。



- ⑰ブラシとエアを使いアンカー下穴を完全に清掃する。
⑱基礎プレートを基礎面に宛がい、アンカーを下穴奥まで完全に差し込む。
⑲大ハンマーを使い、アンカーセンター芯棒をボルト面まで確実に叩き込む。
(※叩き込みミスで、ネジ溝を傷つけないようネジ溝保護にナットを取付けて作業。)
⑳ナット、袋ナットを締めつけて固定完了。
(※ナットの締付力にご注意ください。締付が必要以上に強いと引抜け出でてくる場合があります。)

②1 ステンレスカバー取付。

②1 本体裏面に合わせ、スライドさせながら下へ止まるまで押し下げます。
カバー内への風雨侵入を完全に防止したい場合は、カバー周囲に外部用コーキング処理で塞ぎます。
(※建物内への風雨侵入は EVA シートが防止、保護しています。)
カバー加工面は、けがをする恐れがあります。なぞったりぶついたりしないよう取扱いには十分ご注意ください。

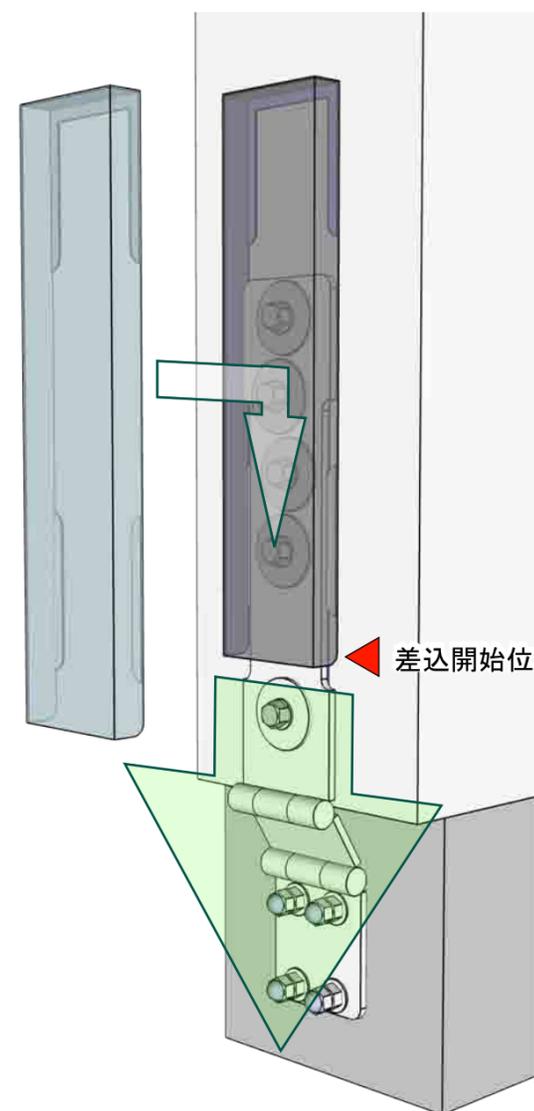


※取付作業時のご注意とその他。

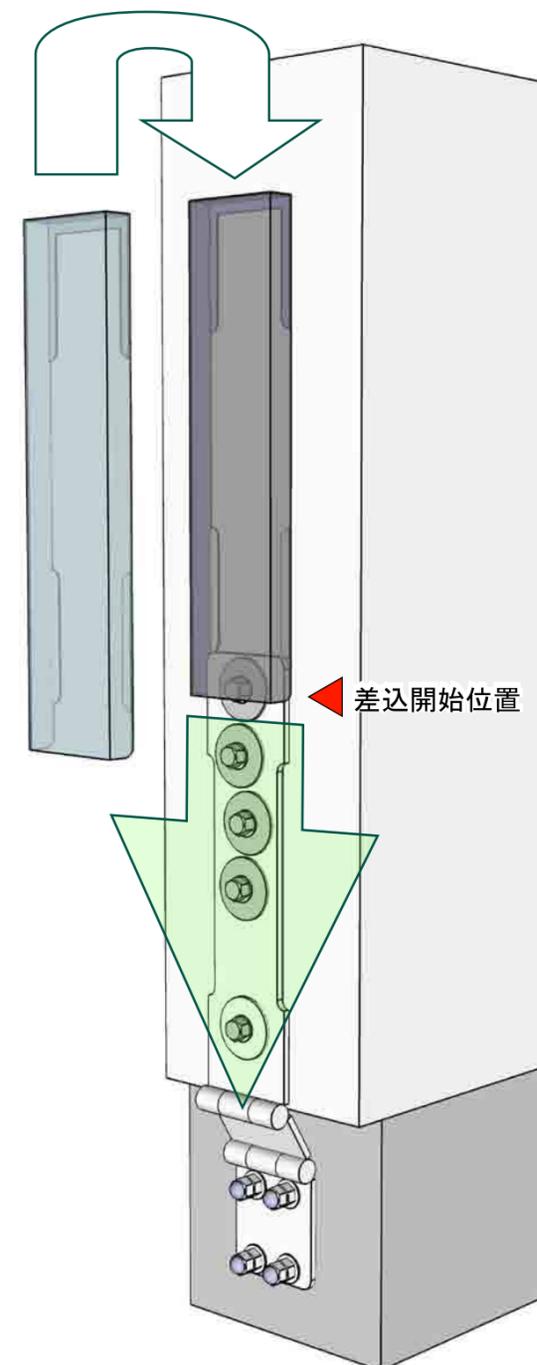
- 取付けは、施工書記載全ての項目に従い進め行ってください。
- より確実な防水性・盗難防止を重視される場合には、壁とカバー接部の全周をコーキング処理して下さい。
- カバー表面の細かい傷が気になる場合には、スコッチ・ブラシ等で模様目に沿い磨いて下さい。
- 取付箇所、方法、施工条件、取付後の環境、他、によりましては、本来の補強性能を発揮できない場合があります。
- 在来木造軸組工法の「柱」1本を基礎と接合し臍抜けを防止する為の金物です。その他の目的にはご使用出来ません。
- この金物1個で柱1本の接合・補強を目的とした補強金物で、建物全体の補強、接合となる金物ではありません。
- 直下型地震時に建物全体の基礎との接合力を高める為には、基礎とより多くの柱を金物で接合する必要があります。

カバー「1.」と「2.」の取付方法。

1. 金物上部に障害物がある場合に有利な前面スライド取付方法です。



1. 金物上部に余裕がある場合の上からのスライド取付方法です。



※カバーが止まる位置まで確実に押し下げて下さい。

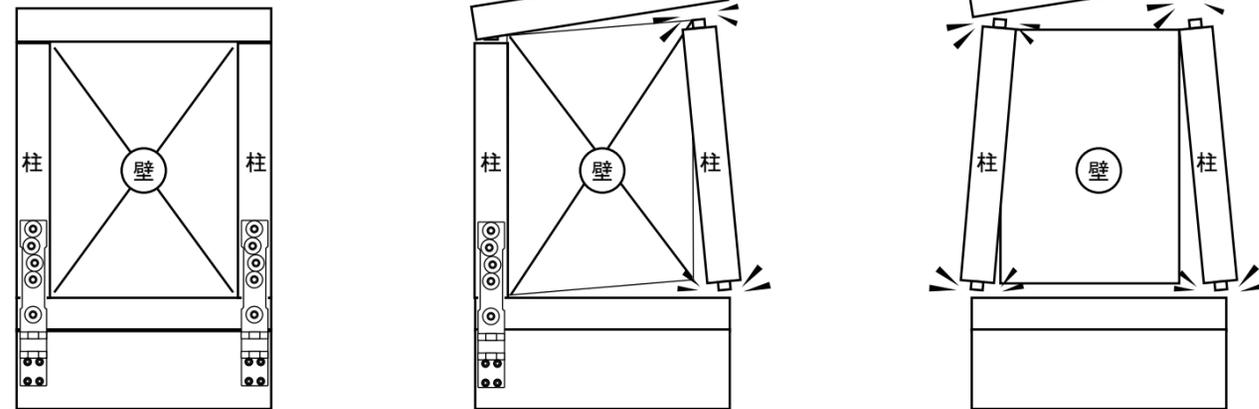
SML-LMD 取付寸法図

SML-LMD 取付寸法図

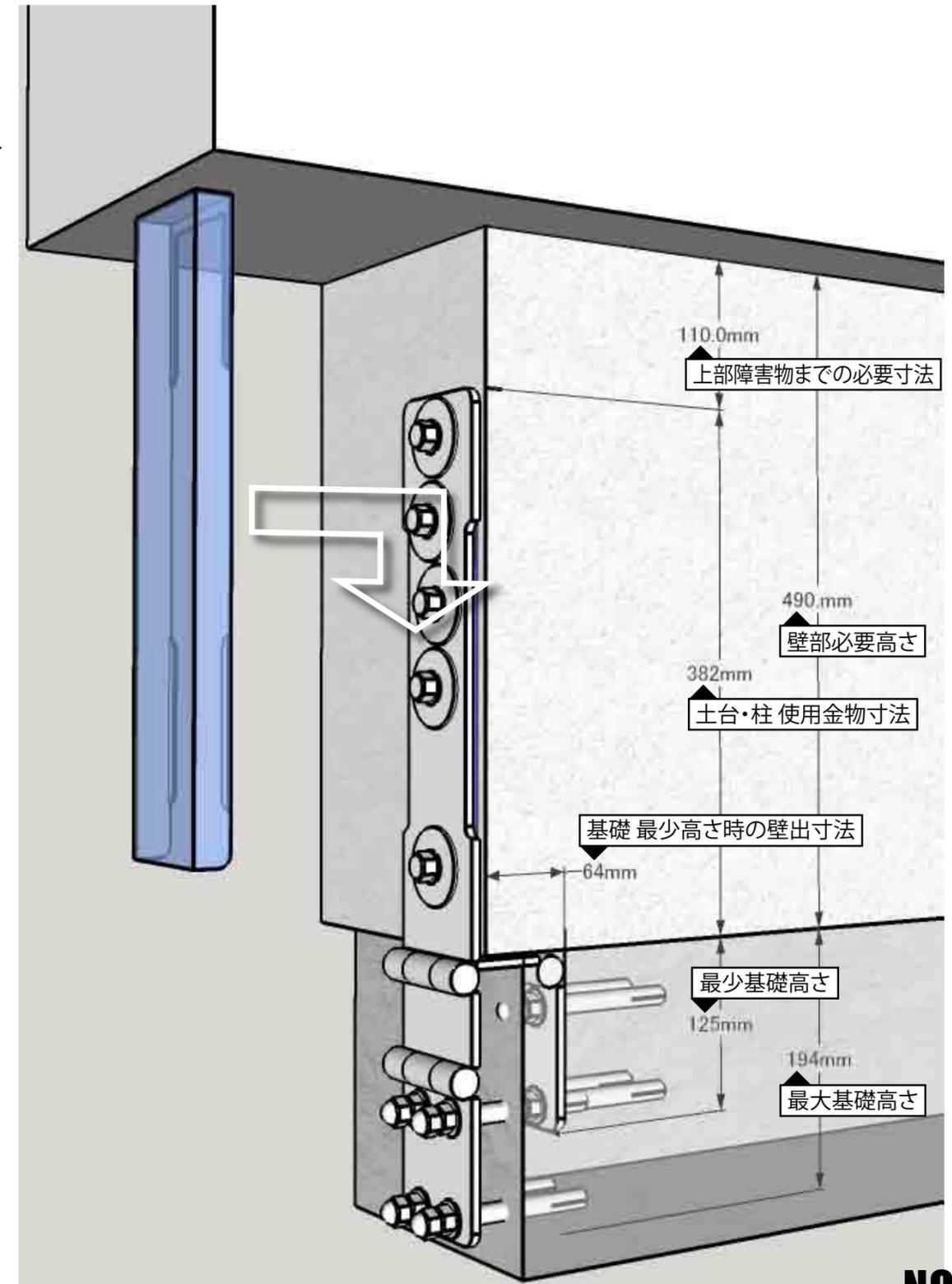
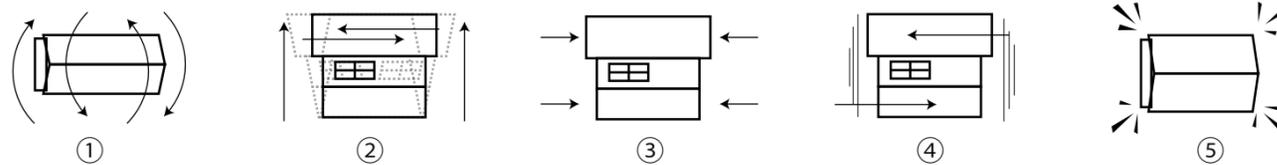
- 1.必要 基礎高さ125mm~194mm以上 前後の出64mm以内 (※壁と基礎の前・後 出により金物の最高位置、木部・アンカーボルト位置が変わります。)
 - 2.土台から柱部に使用する金物の高さ・寸法 約382mm前後 (※基礎プレートの取付位置で金物取付最高さ位置が変化します。)
 - 3.カバー取付時に必要な金物上部余地と必要高さ (※金物取付時の金物上部位置からの必要寸法110mm~以上)
- 実際に金物を取付ける際に、表記参考寸法に余裕を持たせて取付位置を決定してください。

●参考図の金物取付位置寸法は、建物、取付箇所、取付方法、取付位置、その他の条件により変化します。金物を実際に取付ける建物の様々な条件下を優先しご確認の上、取付作業をお進め下さい。

★耐力壁の確保を担います。



★どんな揺れにも耐えられる家造りに貢献します。



記録

MEMO



シナプス・インターナショナル COMPANY.

検索 🔍

シナプス耐震



<http://www.synapsejp.com>



synapse.international@synapsejp.com

